
B型の男

あきねこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B型の男

【Nコード】

N2361B

【作者名】

あきねこ

【あらすじ】

「私」はB型の男を好きになった。何も言えない「私」。軽く体験談です。

私は一人の男を好きになった。

そいつはB型。

気にしない。

好きだから。

すごく自己中人だった。

でも気にしない。

好きだから。

遊びに誘われると、ドキドキする。

やっぱり好き。

B型の男の家に泊まることが何度かあった。

友達と。

B型の男は自分のベットで。

私は下にひかれた布団で寝る。

隣には何も知らない友達がいる。

友達は疲れて寝ている。

私とB型の男は、疲れているが、一晩中何かを話していた。
とつても楽しかった。

そんなことが何度もあった。

B型の男は、私の脚を触る。

腕を触る。

変なことをしようとか、そんなことじゃない。

ただ触っていた。

私はドキドキする。

そんなことが何度もあった。

友達が帰り、二人つきりになる。

そんなことが何度もあった。

ある日、私はふざけてB型の男のベットに入ってみた。

ドキドキしながら話していた。

B型の男は何もしない。

友達だから。

私はふざけて、キスをした。

ふざけて？

ふざけてとみせかけて、すごく緊張してキスをした。

B型の男は、何かが切れたように私にキスをしてくれた。

私たちの中には何も無い。

好き、とか付き合おう、とか何も無い。

好き、があるのは私だけ。

少しせつなくなりつつも、私はB型の男にくっついた。

そしてB型の男は電気を消した。

その日からB型の男は私に優しくしてくれた。

私は嬉しかった。

好きだから。

でも、私たちの中には何も無い。

私はそれが悲しい。

私とB型の男は何度も何度もキスをする。

いつもそして電気を消す。

すべて終わった後は悲しさが残る。

私はそれでもいい。

好きだから。

私は何も言わない。

言ってしまうえば終わってしまうから。

何も言わないまま時がたち、B型の男には彼女ができた。

私は何もなかった顔でおめでとう、と言う。

そして家に帰り、B型の男にメールを送る。

「大好きだよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2361b/>

B型の男

2010年12月30日05時03分発行